

千年の森便り No.271

2026.10.28

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月12日（月祝）天候 晴れ時々曇り

元中央博物館の吹春先生と奥様、神奈川県から中島先生を講師にお招きし、公開行事として秋のきのこ観察会を行いました。今回は晴れ続きの3連休の3日目、多くの参加者を迎え豊英島はとても賑やかな1日となりました。きのこはちょっと発生のタイミングが外れたようで量はあまり多くありませんでしたが、ご参加のみなさんの熱心な探索によりたくさんの種類のきのこを観察することができました。

参加者は、講師3名、一般参加30名、会員が、秋元、伊藤、鶴沢、片野、坂本、中田家3名、成沢、福島の10名、合わせて43名でした。坂本さんからは、参加者へのお土産に枝豆などの野菜の差し入れをいただきました。ありがとうございました。

次回の活動日は11月15日（日）、ホテイ岬地区整備、植生保護柵補修、危険木伐採等を予定しています。もしかしたら大きなコウタケが見られるかも？ 体験参加大歓迎です。（福島）



県民の森駐車場に集合



吊り橋前の順番待ち行列



吊り橋を渡って豊英島へ



千年広場に集ってきのこ探しのスタート



吹春先生と中島先生



ランの専門家の谷亀先生



みんなできのこ探し



いろいろなきのこが集まりました

○吹春講師による軟らかいきのこの解説

今回の観察会で採取されたきのこを、主に胞子の色で分けた資料の順に沿って吹春講師に解説していただきました。胞子の色はきのこを分類する際の大きな指標となっていて、大きな図鑑だと白いものから褐色のものという順番で書かれている。胞子の色を見る時には、肉眼ではヒダの色を見る。

ベニタケの仲間の胞子は白からクリーム色、ブナ科の森で優占して樹木と共生する重要なきのこ。巨大なグループではあるが名前がつくものは少ない。特徴は、傘や柄が縦に裂けなくともろい。乳液が出ないルスラ（ベニタケ属）ではクロハツの仲間（クロハツは傷がつくと赤から黒に変色するが、



これは赤のまま）、乳液が出るラクタリウス（チチタケ属）では、乳液が黄色に変色するキチチタケ、透明から紫に変色するトビチャチタケ、白い乳液のケシロハツが採れた。ここで谷亀先生からは、ベニタケ科のきのこはランと共生するものが多く、キンランやムヨウランの仲間、ギンリョウソウなどはベニタケと共生しているとの話があり、ケシロハツについては齧って味見をされていました！（詳しくは谷亀先生の投稿をご覧ください）

ヌメリガサの仲間ではアカヤマタケが採れた。傘の色が赤から黒っぽく変色しているが、アカヤマタケの特徴はヒダが蠟質で厚く蠟細工のように見えるところで、ガレのランプのようなイメージ。

キシメジの仲間は、ツボもツバもなくヒダが白い。代表的なものはトリコローマ（キシメジ属）で、今回はバカマツタケが採れた。マツタケよりも香りが強く、炊き込みご飯ならバカマツタケ。マツタケの仲間は、共生する相手をブナ科からマツ科に広げていったので、バカマツタケはマツタケよりも古いグループと言われている。ほかには、ミネシメジ（ヒダが粗く少し赤変する、石鹸臭と言われる独特の臭いあり）、オオニガシメジ（ヒダが密で肉は強靱、味は苦い）、カキシメジの仲間（触ると褐色に変色、今はDNAで5種類くらいに分けられた、本当のカキシメジだけ毒がある）、ハエトリシメジ（カサの中央が突き出る）、ナラタケの仲間（柄のスジスジの感じが特徴、最強の木材腐朽菌で、ツチアケビ、オニノヤガラなどのランは光合成をせずにナラタケの仲間から栄養をもらっている、谷亀先生によればランが菌に養分を提供しているという話もあるとのこと）、ツエタケの仲間（今は10種類くらいに分けられていて、これが何かは不明）、チシオタケ（クヌギタケの仲間の典型的な形、傷をつけると赤い液が出る）、ヤグラタケ（クロハツなどから発生する）が採れた。

テングタケの仲間では、コテングタケモドキ（動物実験で猛毒と言われているが中毒例はない）、フクロツルタケ（猛毒、傘の表面に外被膜の残りあり）、オオツルタケ（ヒダに黒い縁取りがある）、ドクツルタケに似た不明種（本物のドクツルタケは標高の高い針葉樹林に出るもので、これは未記載種）が採れた。

イッポンシメジの仲間では、ウラベニホテイシメジ（苦い、傘は絹糸状繊維模様）、クサウラベニタケ（苦くない、ウラベニホテイシメジに似ていて中毒が多い、こちらも谷亀先生が味見）が採れた。

アセタケの仲間は、傘の色が藁ぶき屋根のようなところが特徴で、かく乱された場所に出る外生菌根菌。

フウセンタケの仲間は、胞子が成熟すると鉄さび色になる。ランとは共生しない。名前はなかなかつかないが、キンチャフウセンタケ（傘、柄とも褐色の繊維模様）、オニフウセンタケ（東アジアのシイカシ林に特徴的なきのこ）が採れた。

モエギタケの仲間では、ニガクリタケ（死亡例あり、とても苦い、ブラックライトを当てると緑色に光る、こちらも谷亀先生が味見）が採れた。

吹春先生、奥さま、きのこシーズンで連日お忙しい中、今回も豊英島においていただきありがとうございました！また、味見をしていただいた谷亀先生もありがとうございました！！（福島）



ブラックライトで光るニガクリタケ

○中島講師による硬いきのこの解説

カワラタケは世界で一番多く記録されているきのこで、今日はたくさん見られましたが、あまりにもありふれたきのこのためか採取してきた人は誰もいませんでした。一方で、ウチワタケは採ってきた人が多くたくさん集まりました。ウチワタケは色の変異が大きいので誤同定が多く、違うきのこのだと思って採ってきた人が多かったと思われます。ほかに、クジラタケ、ヒイロタケ、ケシワウロコタケがありました。熱帯のきのこで君津市と市原市だけで記録されているオオミダレアミタケは、今回は見つかりませんでした。



フィbroポリア・ラディキュロサは、最近増えていて竹に多く見られ、よく見るとオレンジ色の穴がたくさん見える。木の裏にいて胞子を飛ばせないため、根状菌糸束を伸ばして増える。

アオソメタケは、オシロイタケによく似るが、最近になって別の科に分類された。日本の硬いきのこは分類が進んでいないので外国産の種名を当てはめて名前がついてしまっているものが多いが、研究が進むと別種と分かり、既存の名前を当てられなくなっていく。キシワタケは硬いきのこのように見えるがイグチの仲間。イボタケ目マツバハリタケ科のコウタケは香り（醤油のような香り）が良くて炊き込みご飯に合う。ケロウジはコウタケに似ているが味は苦い（谷亀先生が味見）。ウスタケの仲間、ホウキタケの仲間は種類が多く名前がつかない。

腹菌の仲間のノウタケは風に飛ばされて胞子が飛んでいく。ノウタケによく似るイロガワリホコリタケは、傷がつくと黄色くなるのが特徴。最近増えていて今までノウタケとされていたものの一部はこちらの可能性もある。キツネノロウソクは虫が胞子を散布する、シロキクラゲの仲間のハナビラニカワタケには数種のグループがある。Myxarium にはシュウ酸カルシウムの白い結晶が見える。

子嚢菌は大きなグループで、そのほとんどがカビ。代表的なきのこはアミガサタケ、大きいものはベニチャワソウタケの仲間、中くらいがキンチャワソウタケの仲間、小さいものはニセキンカクアカビョウタケの仲間。クロコブタケの黒いコブはきのこの集合体（子座）で、カエントケも同じようにきのこの集合体。オオミコブタケは黒くなった有性世代が見られた（夏は無性世代で白い）。カワラタケにつくヒポミケス 2 種（タコウキンヤドリタケ、カワラタケキセイキン）は、いずれも KOH で橙色が紫色に変色する。仙人杖と呼ばれる黒くなった竹が見つかった。これはカビが竹について黒くしているもので、稈にさざ波模様ができる。

中島講師からは多くのお話をいただきましたが、私の頭がついていけない部分が多く、十分な説明となっていませんがご容赦ください。（福島）

中島講師に作成していただいた観察リストは 8 ページに掲載してあります。

中島講師の観察記録（iNaturalist）はこちら↓、写真もあります。

https://www.inaturalist.org/observations?q=Toyofusa202610&search_on=tags

○谷亀先生による味見レポート

味の件ですが、私が覚えている範囲で書きたいと思います。強烈だったのは、ケシロハツの強烈な辛みでした。以前、誰かに騙されてオキナクサハツをかじったのを思い出しました。あれは悪臭もありさらに嫌な味でしたが・・・

ハエトリシメジ

独特の風味を感じる。噛んでいると弱い苦みは出てくるが、そんなにきついわけでもない。

ウラベニホテイシメジ

しばらく噛んでいると苦みが口の中に広がる。苦みは結構強い

ケシロハツ

まず弱い苦みが来るが、その後強烈な辛味がジワッと舌先から広がる。しびれるような感じ。強烈で、二度と食べたいとは思わない。お茶などで口をゆすいでも、しばらく辛みが残る。

ニガクリタケ

苦いとは聞いていたが、さほどでもなかった。個体によるのか？

ケロウジ

しばらく咀嚼すると、強い苦みを感じ、お茶などで流しても味が口の中に残るレベル。



谷亀先生ありがとうございました！（福島）

○子供が初めてバカマツタケを採取しました（山田光哉さま）

- ・前回、今回と参加し、四季を感じることが多く、自然の素晴らしさ・奥深さを体感できました。子供と一緒に参加でき、親としても満足しています。
- ・先生方も参加者の方もきのこや植物に詳しい方が多く、話を聞けて楽しいですし、とても勉強になりました。
- ・子供が初めてバカマツタケを採取しましたので、一応写真添付致します。



○きのこ探しにすっかり夢中（佐久間由梨さま）

このたび初めて「ちば千年の森をつくる会」のイベントに家族で参加させていただきました。森の中で体を動かすことがとても心地よく、家族みんなで宝探しをするように、きのこ探しにすっかり夢中になってしまいました。

吹春先生には、希少なコウタケが生えている場所をご教示いただき、そのおかげで娘たちも別の場所でコウタケを発見することができました！先生にもお褒めいただき、娘たちにとってよい経験ができましたこと、親子ともども感激いたしました。先生には家族写真まで撮影していただき、お心遣いに感謝いたします。

また、午後の先生方の解説は大変興味深く、多くの学びがありました。中島先生からは気候変動がきのこの生態にも影響を及ぼしている可能性があることを伺い、地球環境についても考える貴重な機会となりました。さらに、谷亀先生から教えていただいた「樹木・共生菌・ラン」の3者共生の関係など、初めて知ることばかりで非常に驚き、自然の不思議と奥深さに感動いたしました。先生方のお話から謎多ききのこの世界をもっと知りたくなり、素晴らしい学びと体験ができた一日となりました。また、きのこ観察会をはじめ、ぜひ森林保全活動などにも参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。



○豊英島は生物多様性の宝庫（吉川節子さま）

今回は8月豪雨、9月台風のあとで、道路、鉄道など土砂崩れで通行止めのところもあり開催されるか心配しておりました。間近になって連絡を頂き開催されることのお話を頂き皆様に感謝しています。

ちば千年の森へは私は3回目の参加となりますが、つり橋を渡ると深い森の中に入った感じがします。説明のあとバカマツタケを見に付いて行きましたが、だんだんと細いやせ尾根になりびっくりです。結果、「無い」とい

うことで引き返しましたが、後でバカマツタケを見せて頂いたときはマツタケと同じような良い香りがしてまたびっくりしました。戻る途中一緒にさせて頂いた方がヤグラタケを見つけられ、傍には不思議な褐色の粉に覆われていたのがありましたので採取。吹春先生よりこの褐色の粉は「厚壁孢子という特殊な孢子」の説明をして頂きとても勉強になりました。

谷亀先生には以前、自然教育園で菌従属栄養植物のお話を伺ってラン科と菌類の研究をされているとお聞きしていました。今回はたくさんのキノコの味見をされていたので驚きでした。中島先生からは様々なキノコがいくつかの種類にわけられ、新しい菌類が見つかるなど、とても進歩が速い…というお話を聞くことが出来ました。キノコの話の内容が深く大変でしたがとても楽しく過ごすことができました。豊英島は生物多様性の宝庫だと思います。千葉県民ではないのですが参加させていただきありがとうございました。企画をしてくださった方々、またお野菜もいただき皆様本当にありがとうございました。



○谷亀先生の学者魂

今回のきのこ観察会の同定で辛い、苦いや旨味を持つ種類の小片を噛んで確認してくれた谷亀先生を初めて知ったのは2010年12月18日に県立中央博物館で開かれた講演会でした。この講演会でキンランは立派な葉を持つ普通のランに見えるのに、ベニタケ科のきのこの菌糸からエネルギーの供給を受けなければ生きられない菌従属栄養植物と知り衝撃を受けました。自分が主催する観察会でキンランが見られた時はこの話を持ち出して何度も使わせてもらっている有難いネタです。

今回のきのこの味の確認では激辛のきのこに悲鳴を上げ水で口を漱いでは次々に登場する苦いきのこの味見役を買って出てくださいました。研究室で文献を漁るだけではなく実際に体を張ってやってみる行動派の学者魂を垣間見た気がしました。辛いにしても痛いような辛さとか苦みの違いについてもご自身の言葉で表現されていました。私の隣にいた小学生は大丈夫かなとつぶやいて心配顔でしたが、体験を基にした講義はこれからも学生達に対して説得力があると思いました。(坂本)

お知らせ

○次回の定例活動は11月15日(日)です

ホテイ岬地区整備、植生保護柵補修、危険木伐採等を予定しています。

もしかしたら大きなコウタケが見られるかも?体験参加大歓迎です。

ヤマビル・ダニ対策、ヘルメット着用をお願いします。

**今回の「秋のきのこ観察会 in 豊英島」は、一般社団法人 千葉県環境財団の、
県民の環境活動支援事業の助成を受けて実施しました。**

〇きのこの本の紹介（吹春俊光講師）

●『きのこの暮らし（ずかんプラス）』（2026年5月25日発売）

〇清水洋美（著），吹春俊光（監修），大作晃一（写真），いずもりよう（イラスト） 〇出版社：技術評論社 〇B5判，ソフトカバー，160頁 〇通常の図鑑と異なり，菌類（きのこ）の暮らし方に焦点をあてて見開き解説 〇子供用に見えるが，大人がよんでも楽しめる 〇3080円（税込） 〇ISBN-10：4297156032，ISBN-13：978-4297156039

●『世界の美しいきのこ絵』（2026年9月18日発売）

〇出版社：パイ インターナショナル 〇著者：吹春俊光 〇288頁，文庫本サイズ，ハードカバー 〇内容：西洋と日本の18-19世紀のきのこ絵をあつめて紹介 〇『Mushroom Botanical Art（英語版）2021年／きのこ絵（2012年，絶版）』，パイ インターナショナル，A5版）の続編，〇カバーをはずしても見かけがよいのでプレゼント用途でも 〇2200円（税込） 〇ISBN-10：4756261388，ISBN-13：978-4756261380

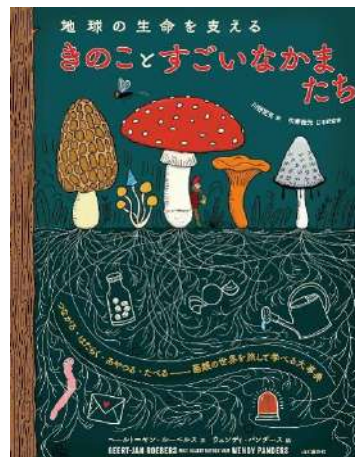
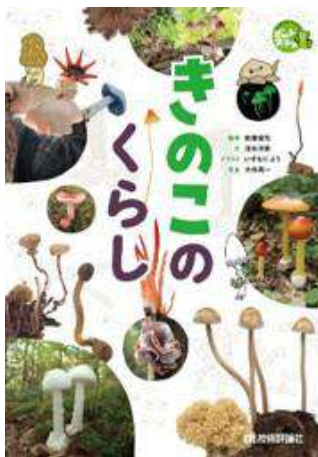
●『地球の生命を支える きのことすごいなかまたち つながる・はたらく・あやつる・たべる——菌類の世界を旅して学べる大事典』（2026年10月5日発売）

ハールトニヤン・ルーベルス（著），ウェンディ・パンダース（イラスト），川野夏実（翻訳），吹春俊光（監修） 〇出版社：山と溪谷社 〇AB判，ハードカバー，144頁 〇豊富なイラストで菌類の世界を紹介（アマゾンにサンプル頁有） 〇絵本風の装丁で子供用に見えるが，内容は多岐にわたりテキストや頁数も豊富で大人がよんでも楽しめる，躊躇する価格かもしれないので近くの図書館に購入を依頼してもいいかも 〇4620円（税込） 〇ISBN-10：4635350045，ISBN-13：978-4635350044

〇中島淳志講師の本の紹介

●『みんなが知りたい! 「きのこ」のひみつ ふしぎな色や形のなぞにせまる』（2026年8月4日発売）

〇出版社：メイツ出版 〇著者：中島淳志 〇120頁 〇この本は，探検と推理の要素を取り込んで，子どもがきのこ探しと名前の調べ方を学ぶものですが，内容は大人も十分楽しめるものとなっています。amazonで購入できます！ 〇1947円（税込） 〇ISBN-10：478043176X，ISBN-13：978-4780431766



10月4日（日）天候 晴れ時々曇り 臨時活動

8月16日の活動日は、令和8年8月千葉豪雨により、9月20日の活動日は、千葉県に大きな被害をもたらした台風25号のために中止としました。被害を受けた多くの方にお見舞いを申し上げます。

台風通過後の9月22日、豊英島までの道路状況を確認するために伊藤さん、鶴沢さんに島に向かっていただきましたが、鶴沢さんはJRが不通のため、車で向かった伊藤さんは道路が通行止めのために島まで到達することができませんでした。

そこで、10月12日の秋のきのこ観察会が開催可能かどうかを確認するため、10月4日に臨時活動を行いました。活動内容としては、君津インターから豊英島までの通行可能なルートを確認、豊英ダムから島までの進入路の状況確認と道路沿いの刈り払い、駐車場の刈り払い、島内の状況確認を行い、秋のきのこ観察会が開催可能であることを確認しました。まずまずのお天気で、久しぶりに心地よい汗をかきました。

島内は、ナラ枯れで枯死したコナラの倒木が多く、植生保護柵が5か所で倒木により破損しており補修を行いました。きのこは、秋元さんが鼻を利かせてバカマツタケを2本採取、ほかにはミネシメジ、ベニタケの仲間、フウセンタケの仲間、ホウキタケの仲間などが出ていました。動物では、ヤマカガシを確認しました。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、片野、坂本、福島の6名。坂本さんから、枝豆、南瓜の差し入れをいただきました。ごちそうさまでした。



進入路の草刈り作業



草刈り終了



倒木でつぶれた植生保護柵



途中で見つけたきのこ



コウヤボウキ（10月12日）



マムシ（10月12日）

N	和名	学名	門	亜門	綱	目	科	属
1	アオノメタケ	<i>Cyanosporus caesius</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	Postiaceae	Cyanosporus
2	アオモシホリ	<i>Physarum viride</i>	動物門		變形菌綱	モシホリ目		
3	アカコナタケ属	<i>Hypoxylon</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	アカコナタケ科	アカコナタケ属
4	アカヤマタケ	<i>Hygrocybe conica</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ヌメリガサ科	アカヤマタケ属
5	アストロスファエリウ属	<i>Astrosphaeriella</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	クロイボタケ綱	フレオスボロ目	アストロスファエリウ科	Astrosphaeriella
6	アセバタ科	<i>Inocybaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	アセバタ科	
7	アビコウボウタケ	<i>Tubulicium curvisporum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	トレキスボロ目	ヒドドン科	トブリシウム属
8	イッポコンシメジ属	<i>Entoloma</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	イッポコンシメジ科	イッポコンシメジ属
9	イッポコンシメジ属	<i>Entoloma</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	イッポコンシメジ科	イッポコンシメジ属
10	イッポコンシメジ属	<i>Entoloma</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	イッポコンシメジ科	イッポコンシメジ属
11	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	イボタケ綱	イボタケ目	イボタケ科	イボタケ属
12	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イボタケ目	イボタケ科	イボタケ属
13	イロガリリホコリタケ	<i>Calvatia rugosa</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ホコリタケ科	ワラタケ属
14	ウスタケ	<i>Turbinellus floccosus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラバタケ目	ラバタケ科	ウスタケ属
15	ウチウタケ	<i>Microporus affinis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	タマツホレイタケ科	ツヤウチウタケ属
16	ウラハヘホチシメジ	<i>Entoloma sarcopum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	イッポコンシメジ科	イッポコンシメジ属
17	エガリタ ケンケンディ	<i>Aegerita candida</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	Aegeritaceae	Aegerita
18	オウデニマシシエリウ属	<i>Oudemansiella</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	タマリタケ科	オウデニマシシエリウ属
19	オウデニマシシエリウ属	<i>Oudemansiella</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	タマリタケ科	オウデニマシシエリウ属
20	オオムシタケ	<i>Trichaleurina tenuispora</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	チャウンタケ綱	チャウンタケ目	キリミミタケ科	トリカウリウ属
21	オオリタルタケ	<i>Amanita cheelii</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
22	オオニガメシ	<i>Tricholoma acerbum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
23	オオニシタケ	<i>Kretzschmaria deusta</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	クロサイワイタケ科	トビツゴコバタケ属
24	オコフセンタケ	<i>Cortinarius nigrosquamosus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	フセンタケ科	フセンタケ属
25	カブリヂイウム目	<i>Capnodiales</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	クロイボタケ綱	カブリヂイウム目		
26	カミナリホコリ属	<i>Comatricha</i>	動物門		變形菌綱	ムササキホコリ目	スミホコリ科	カミナリホコリ属
27	カサハラタケ属	<i>Lactarius</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	カサハラタケ属
28	カラワタケ	<i>Trametes versicolor</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	タマツホレイタケ科	シロアシタケ属
29	キンウタケ	<i>Pseudomerulius aureus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグサ目	イチウタケ科	キンウタケ属
30	キンチタケ	<i>Lactarius chrysorheus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	カサハラタケ属
31	キヒモカワタケモドキ	<i>Rhizochaete radicata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	マクワタケ科	ヒモカワタケ属
32	キンチウフセンタケ	<i>Cortinarius aureobrunneus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	フセンタケ科	フセンタケ属
33	キンチウフセンタケ	<i>Sowerbyella rhenana</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	チャウンタケ綱	チャウンタケ目	ヒロバキン科	ソウバヒロバシエリウ属
34	クラシラタケ	<i>Trametes orientalis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	タマツホレイタケ科	シロアシタケ属
35	クロイタタケ属	<i>Biscogniauxia</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	クラフスエトロマ科	クロイタタケ属
36	クロコタケ	<i>Annulohyphoxylon truncatum</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	アカコナタケ科	Annulohyphoxylon
37	クロヒメニシタケ	<i>Cystoagaricus strobilomyces</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ナヨタケ科	クロヒメニシタケ属
38	クロロコトカビ属	<i>Chaetosphaerella</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	コロノフオ目	ケートスフルタケ科	クロロコトカビ属
39	クラシラツ	<i>Lactifluus vellereus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	チヂタケ属
40	クラウツロコタケ	<i>Punctularia strigosozonata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	コウヤクタケ目	コウヤクタケ科	ケンウツロコタケ属
41	クホコリ科	<i>Trichiaceae</i>	動物門		變形菌綱	クホコリ目	クホコリ科	
42	クワコタケ	<i>Hydnellum scabrosum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イボタケ目	Boletopsidaceae	チヤリハタケ属
43	コウタケ属	<i>Sarcodon</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イボタケ目	Boletopsidaceae	コウタケ属
44	コウイロササタケ属	<i>Chlorocrella</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	ズキンタケ綱	ヒョウタケ目	Cenangiaaceae	コウイロササタケ属
45	コラングタケモドキ	<i>Amanita pseudoporphyrina</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
46	コロトリホカム・シェンジンチャン	<i>Colletotrichum hsienjenchang</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	コロムラ目	コロムラ科	Colletotrichum
47	クヌメイナ部	<i>Genuina</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
48	シウイタケ	<i>Cyanotrama gypsea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タリコロコタケ目	タリコロコタケ科	Cyanotrama
49	シロウツホホコリ	<i>Arcyria cinerea</i>	動物門		變形菌綱	クホコリ目	ウツホホコリ科	ウツホホコリ属
50	シロクワハツ	<i>Russula albonigra</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
51	シロホトリホア属	<i>Stromatolinea</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	シメタケ科	Stromatolinea
52	タイダリガサ	<i>Cyrtotrama asprata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	タマリタケ科	タイダリガサ属
53	タイダリタケ	<i>Phellinus xeranticus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タリコロコタケ目	タリコロコタケ科	キノコバタケ属
54	タリコロコタケ科	<i>Hymenochaetaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タリコロコタケ目	タリコロコタケ科	
55	タマツグタケ目	<i>Phalloideae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
56	チシネタケ	<i>Mycena haematopus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	クヌギタケ科	クヌギタケ属
57	チウワロタケ	<i>Stereum ostrea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ワロコタケ科	キノワロコタケ属
58	チヤツムタケ属	<i>Gymnopilus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ヒメガタスル科	チヤツムタケ属
59	チリメンタケ	<i>Trametes elegans</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	タマツホレイタケ科	シロアシタケ属
60	トビヤチヤタケ	<i>Lactarius uvidus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	カサハラタケ属
61	トリコチマ属	<i>Trichoderma</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	ニクザキン目	ニクザキン科	トリコチマルキン属
62	トリコチマ属	<i>Trichoderma</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	フタマダ綱	ニクザキン目	ニクザキン科
63	ナギナタタケ属	<i>Clavulinopsis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	シロノウメンタケ科	ナギナタタケ属
64	ナラタケ属	<i>Armillaria</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	タマリタケ科	ナラタケ属
65	ニカウリタケ	<i>Hypholoma fasciculare</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	モエキタケ科	ウラタケ属
66	ニクイロアシタケ	<i>Steccherinum nitidum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	ニカウリタケ科	ニカウリタケ属
67	ニグリカニテナイ工師	<i>Nigricantinae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
68	ヒゼキンカガアヒコウタケ	<i>Diccephalospora rufocornea</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	ズキンタケ綱	ヒョウタケ目	ヒョウタケ科	デウツコロスボロ属
69	ニツキタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タリコロコタケ目	Coltriciaceae	オツネンタケ属
70	ニミカウキン	<i>Graphostroma platystomum</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	クラフスエトロマ科	ニミカウキン属
71	ヌメリガサ科	<i>Hygrophoraceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ヌメリガサ科	
72	ネストタケ	<i>Fuscoporia gilva</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	タマリタケ科	ゼビヤナタケ属
73	ネストタケモドキ	<i>Fuscoporia setifera</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タリコロコタケ目	タリコロコタケ科	ゼビヤナタケ属
74	ワラタケ	<i>Calvatia</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ホコリタケ科	ワラタケ属
75	ハイイロクシチャウンタケ属	<i>Mollisia</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	ズキンタケ綱	ベニタケ目	ハイイロクシチャウンタケ科	ベニタケ属
76	ハエトリシメジ	<i>Tricholoma muscarium</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
77	ハヤマヤタケ	<i>Tricholoma bakamatsutake</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
78	ハカワサタケ	<i>Trichaptum biforme</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タリコロコタケ目	タリコロコタケ科	シロイタケ属
79	ハバゼラニコウタケ	<i>Phaeotremella foliacea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	シロキクラゲ綱	シロキクラゲ目	フエストレマラ科	Phaeotremella
80	ハラタケ綱	<i>Agaricomycetes</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱			
81	ハラタケ綱	<i>Agaricomycetes</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱			
82	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
83	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
84	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
85	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
86	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
87	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
88	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
89	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
90	ハンブシヨウ属	<i>Bambusicola</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	クロイボタケ綱	フレオスボロ目	ハンブシヨウ科	Bambusicola
91	ヒイロタケ	<i>Trametes coccinea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	タマツホレイタケ科	シロアシタケ属
92	ヒイロタケ	<i>Trametes coccinea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	タマツホレイタケ科	シロアシタケ属
93	ヒスチリウム科	<i>Hysteriaceae</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	クロイボタケ綱	ヒスチリウム目	ヒスチリウム科	
94	ビスソコチメルシウム・エフィブラナム	<i>Byssocorticium efbulatum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	アリア目	Byssocorticaceae	ビスソコチメルシウム属
95	ピコウヤクタケ属	<i>Dendrothele</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	Cyphellopsidaceae	ピコウヤクタケ属
96	ヒメミナシ属	<i>Hypomyces</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	フタマダ綱	ニクザキン目	ニクザキン科	ヒメミナシ属
97	ヒメツチグリ属	<i>Geastrum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ヒメツチグリ目	ヒメツチグリ科	ヒメツチグリ属
98	ヒメヒトヨウタケ	<i>Coprinopsis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ナヨタケ科	ヒメヒトヨウタケ属
99	ヒメミカンタケ科	<i>Arthrobotryaceae</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	オルビリアキン綱	オルビリアキン目	ヒメミカンタケ科	
100	ヒモツキミハタケ	<i>Etheiroidon fimbriatum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	ニカウリタケ科	Etheiroidon
101	ヒラタケ属	<i>Pleurotus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ヒラタケ科	ヒラタケ属
102	ヒロドムタケタケ属	<i>Simocybe</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	チャヒラタケ科	ヒロドムタケタケ属
103	フィロロリウ・ラディキユローサ	<i>Fibroporia radiculosa</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	Fibroporiaceae	フィロロリウ属
104	フセンタケ科	<i>Cortinariaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	フセンタケ科	
105	フセンタケ科	<i>Cortinariaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	フセンタケ科	
106	フクヨウリタケ目	<i>Amideia</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
107	ユウグスキサシラタケ	<i>Chlorosplenium chlora</i>	子囊菌門	ハラタケ亜門	ズキンタケ綱	ヒョウタケ目	Chlorospleniaceae	クログスサフナム属
108	ベニタケ目	<i>Russula</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
109	ベニタケ目	<i>Russula</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
110	ベニチャウンタケ属	<i>Sarcoscypha</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	チャウンタケ綱	チャウンタケ目	ベニチャウンタケ科	ベニチャウンタケ属
111	ホウキタケ属	<i>Ramaria</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラバタケ目	ラバタケ科	ホウキタケ属
112	ホウキタケ属	<i>Ramaria</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラバタケ目	ラバタケ科	ホウキタケ属
113	ホウキタケ属	<i>Ramaria</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラバタケ目	ラバタケ科	ホウキタケ属
114	ホウキタケタケ	<i>Fomitopsis dickinsii</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマツホレイタケ目	ツガサルノコシカケ科	ツガサルノコシカケ属
115	ホコリタケ属	<i>Lycoperdon</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ホコリタケ科	ホコリタケ属
116	ミクザリウム属	<i>Myxarium</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	キクラゲ目	Hyaloriaceae	Myxarium
117	ミトリシメジ	<i>Tricholoma saponaceum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
118	ムチヌス・タイシヤケンシス	<i>Mutinus taishanensis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	スッポンタケ目	スッポンタケ科	キノネ・ロウソク属
119	モミジウロコタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ワロコタケ科	カウワロコタケ属
120	モンバキン属	<i>Septobasidium</i>	担子菌門	サビキン亜門	サビキン綱	モンバキン目	モンバキン科	モンバキン属
121	ヤグラタケ	<i>Asterophora lycoperdoideis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	シメジ科	ヤグラタケ属
122	ラバタケ科	<i>Gomphaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラバタケ目	ラバタケ科	
123	リディヒステロン属	<i>Rhytidhysterion</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	クロイボタケ綱	ヒスチリウム目	ヒスチリウム科	Rhytidhysterion
124	レンボシア・クエルキコラ	<i>Lembosia quercicola</i>	子囊菌門	チャウンタケ亜門	クロイボタケ綱	アスナリ目	Lembosia	
125	ロアンノケンセス部	<i>Roanokenses</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
126	菌界	<i>Fungi</i>						
127	菌界	<i>Fungi</i>						
128	菌界	<i>Fungi</i>						